

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年2月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104951
法人名	医療法人明輝会
事業所名	グループホーム帯迫
所在地	鹿児島県鹿児島市吉野町2826-1 (電話) 099-295-7055
自己評価作成日	令和3年1月9日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当グループホームは鹿児島市北部の薩摩吉田インターより車で10分の住宅地に位置している。桜の木を中心とした中庭を施設が丸く囲み、建物内に企業主導型保育園が併設されている。子供たちがグループホームに遊びにきたり、庭を走り回る姿が見られたり、施設の大きな行事であるお花見、夏祭り、運動会、餅つきを合同で行い賑やかに過ごしている。

・近隣には母体の医療機関や訪問看護ステーション、介護老人保健施設など多くの関連施設があり、利用者様の健康管理や緊急時対応などの支援体制が整っている。御家族にも安心いただける様に努めている。

・地域の自治会や校区コミュニティ協議会に加入しており、地域の行事(運動会)や校区の会合や勉強会に参加している。地域との交流会として炊き出し訓練・お花見や餅つきを施設で行っている。現在、コロナ渦の為、多くの行事が中止や縮小となっており、思うような交流ができていない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市中心地から数km離れた吉野地区の閑静な住宅街に平成18年に開設されており、2ユニットの間に保育所も併設されて、日常的に園児の歌やお遊戯、遊びの様子が見られ、一緒に会話を楽しんでいる。また、運動会等の行事には、招待し合い、防災訓練も合同で実施している。近くの幹線道路にはスーパーマーケットや薬局、チェーンの商業施設、飲食店、個人商店が立ち並んで利便性は十分である。

母体法人の医療機関や介護老人保健施設など関連施設が近くにあり、これらの事業所とは情報の共有を図り、通院時の送迎や外出時に車を借用する等の相互に協力する体制も構築されている。また、協力医療機関との連携も密で、定期的な訪問診療や訪問看護の実施や24時間医療連携が構築されて、利用者や家族の安心に繋がっている。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者がその人らしく生きがいのある平穏な暮らしとなるように、一人一人の思いに寄り添い、利用者主体の支援に日々努めている。虐待や権利の擁護については、研修やアンケート「虐待の目」を実施して、“虐待の無い”、“虐待を見逃さない”を意識して利用者の自由な暮らしの支援に取り組んでいる。日頃から利用者及び家族の思いや要望の把握に努め、サービスの改善に取り組んでおり、信頼関係が築かれている。

管理者は、職員と気軽に意見を言い合える関係を構築しており、日頃の業務の中や職員会議時に積極的に意見や要望を聞き取り、個人的事情にも配慮しながら業務やサービスの向上に努めている。また、随時、職員アンケートも実施して休憩時間確保に係る改善を図る等、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を踏まえて、地域の中で毎日を楽しく穏やかに過ごせるように努めている。勉強会の際に唱和して共有・実践に努めている。	ホームの運営理念に「利用者が地域や家族と触れ合いながらその人らしく安心して生活出来るように寄り添う支援の実践」を掲げ、確認しやすい玄関に介護方針と共に掲示しており、毎月の職員会議で唱和も行って共有している。日頃の業務の中や申し送り等で、ケアの振り返りや意見交換を行って理念に添った支援の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事（お祭り・運動会・棒踊り等）に参加し、また事業所の行事（餅つき・芋煮会等）の開放も予定していたが、感染予防対策の為中止している。	自治会に加入して回覧板等で地域の情報を把握している。通常は地域のイベントに参加し、散歩や買い物時には地域の人と会話を楽しみ、また、ホームの行事に地域の人に参加してもらい、家族・友人の面会、施設見学、ボランティア等を受け入れるなどの交流が図られているが、現在は、新型コロナウイルスの感染予防のためボランティアの受け入れやイベントへの参加等は自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	周辺地域の皆さんからの施設見学・入居相談と合わせて認知症対応のお困りごとの相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防の為、運営状況報告を行っている。事故の報告、行事報告など行っている。	会議は定期的（年6回）に開催し、家族や民生委員、行政職員等が出席して、ホームや利用者の現況、ヒヤリハット事例等の報告を行い、委員からは地域の情報等が出されているが、本年度は新型コロナウイルス感染予防に配慮して一堂に会するのは控えて、資料を持参して現状を理解してもらっている。会議再開後は、家族の参加を増やして活性化を図りたい意向である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者や副主任が市町村担当者と、連絡を取り必要な相談や報告を行っている。また、吉野地区のグループホームの集まりで勉強会や交流を行っているが、今年度は中止している。	介護保険の更新や各種制度の申請、報告に関すること、ホームの運営や感染症予防に係る相談、生活保護受給者の支援に関する事等を電話や窓口に出向いて行い、指導や助言をもらうなど、日頃から協力関係を築いている。最近では新型コロナウイルス感染症に関する協議を行う機会が増加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回の勉強会の中で、身体拘束防止委員会を中心に勉強会を行い周知に努めている。また、日中施錠しておらず、拘束しない前提でご利用者への対応を話し合っている。	身体拘束や高齢者虐待、権利の擁護については、身体拘束適正委員会の開催や施設内研修を計画的に実施して、認識を共有している。指針を整備し、アンケート「虐待の目」も実施して“虐待のない、虐待を見過ごさない”姿勢で、利用者主体の自由な暮らしを支援している。昼間は施錠は行わず見守りや寄り添うケアに努め、不適切な言葉遣いには主に管理者やケアリーダーが注意して改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会を中心に勉強会や啓もう活動を実施している。定期的に標語を作成し事業所内に掲示するなど、意識を高めて虐待を見逃さないように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだまだ理解不足な部分があるが、後見人制度を利用されているご利用者がおり、実際に学ぶ機会となった。今後も様々な研修等を通じて学び、活用できるように取り組む。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際しては丁寧に説明し不安に思っている部分や、疑問点は解消できるように、ご説明する。改定時と同じように、ご理解いただけるように説明に努める。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のご家族とのコミュニケーションの中で、不安なことはないか？ご不満な事やご要望がないか？お伺いしながら、頂いたご意見を支援に反映するよう努めている。意見箱も設置している。	利用者の意向を日頃の会話や仕草、独自のサイン等で理解し、家族からの意見、要望は面会や電話、手紙、毎月発行の「帯迫便り」等で利用者の状況を伝えながら把握している。現在、新型コロナウイルス感染予防に配慮してイベントや家族会等は自粛しているが、家族との面会や買い物、外出等の希望には、緊急事態宣言や周辺の感染状況を把握しながらルール化（禁止、自粛、注意の3段階）して実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、月一回の職員会議やリーダー会議、Eワークの面談等多くの機会で見解や提案を受け、事業所運営に反映するよう努めている。	管理者及び職員は気軽に意見を言い合える信頼関係を構築しており、日頃の業務の中や申し送り、職員会議、ユニット会議等で意見、要望等を聞き取り、また、必要に応じて個人面談も実施して改善に取り組んでいる。スキルアップを図る研修を実施し、勤務シフトには個人的事情も配慮すると共に、休憩時間のとり方など改善のための職員アンケートも随時実施して働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のEワークの機会にスタッフの目標設定やその達成度を確認し、自己評価したカウンセリングシートにより現状の把握に努めている。また、資格取得や研修受講を勧め、向上心を持って働ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の介護マイスター研修を利用して、基本的な介護技術の向上を図り、その後キャリア段位制度への取り組みにつなげるよう努めている。また、学びたい研修や取りたい資格には積極的に取り組んで頂いている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>吉野地域のグループホームのネットワークを利用して、情報交換や人的交流、勉強会を行っているが、今年度は感染予防対策の為、中止している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学可能な方には施設見学していただいたり、こちらから訪問させていただき入居前の様子を確認する。ご家族から、これまでの生活の情報をいただきながら、ご本人との関係づくりに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、ご家族の不安や要望を話して頂けるように、こちらからもご質問しながら、しっかりと耳を傾ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にスタッフ間で話し合いの場を設ける。ご家族からも情報をいただきながら必要な支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る力の確認をし、手伝いすぎないように気をつけている。また今まで日常生活や家庭の中で行っていたであろうことを継続できるように支援する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや面会時に日頃の様子をお伝えしている。また施設の行事へご家族も一緒に参加いただいたり、誕生月にご本人・ご家族と一緒にお祝い出来るように努めているが、コロナ渦であまり出来ていない。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	床屋・美容室・ドライブ・買い物・墓参りなど可能な限り外出の支援に努めている。コロナ渦でも、オンライン含め、家族や友人の面会を一定の条件のもとにできるだけ継続している。	利用者毎の馴染みの情報を共有し、体調や天候に配慮しながら日常的に園庭や近辺を散歩している。、家族との面会や買い物、通院、一時帰宅、美容室利用、墓参、ドライブ等については新型コロナウイルスの感染予防に配慮したルールを定めて実施し、お便り、電話の取り次ぎも行って馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を工夫したり、職員が間に入り、スムーズにコミュニケーションが取れ、利用者様同士が良い関係を築ける様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ、今後のご相談を受けたり、様子をうかがう等、関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のご本人やご家族の聞き取りをもとに、表情や声のトーンなど、一人一人に合った思いの確認方法で意向を汲み取れるように努めている。	日頃の会話や仕草、独自のサイン、小さな反応等を見逃すことの無いように努めて思いや意向を把握し、利用者主体の生きがいのある暮らしを家族の意向も伺いながら支援している。余暇時間も利用者の希望する趣味（週刊誌の購読、テレビ視聴、散歩、ぬり絵）やお盆拭き、洗濯物たたみ等の取り組みを個別に支援し、それらの成果には達成感が得られるように言葉を添えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族はじめ、これまでの生活を知る方から幅広く情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や身体状態を良く観察して現状の把握に努めている。日々記録を行い、変化があった時は、情報共有に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や必要に応じて多職種の方に意見を頂きながら毎日のミーティングを行い、その方がどんな思いや意向を持っておられるのか探ったり、今後のケア方針について話し合うようにしている。	利用者や家族の意向を把握し、主治医や訪問看護師の指示やモニタリング時の職員の意見等を基に、残存機能や習慣、趣味等にも配慮した介護計画を作成している。ケアの実施状況は、申し送りや個別援助生活日誌、排泄チェック表等で共有し、利用者の状態の変化時には、実態に沿った介護計画に変更して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや変化を記録に残し、必要な時はカンファレンスを行って職員間で情報を共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望を踏まえ、必要としている事を見極めて柔軟なサービスを提供する様に努めている。(リハビリ・病院受診・外出支援などの相談)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、ホームの行事を案内したり、ボランティアの受け入れをしているが、現在コロナ禍の為ほとんど中止している。地域の消防に協力をもらい訓練を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医の確認を行い、希望する医療機関での受診を行っている。専門病院受診時は、ご家族や職員が付き添い適切な医療を受けている。	本人や家族が希望する医療機関での治療を支援しているが、殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。他科受診も家族と協力して通院しており、月2回の訪問診療や訪問看護(週1回)が実施され、24時間医療連携の体制も構築されて適正な医療が受けられており、利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、医療連携の訪問看護が訪れ、健康相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中病院との連絡相談を行い、病院と円滑な関係作りに努めている。入院中や退院前にはお見舞いに行き、ご様子を確認し、どのような対応がいいのか相談・情報交換を行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に対し重度化・終末期の際の指針を説明している。状態に変化がある時はその都度ご本人・ご家族と相談し、医師の助言を頂きながら個別の状況にどのように対応するか話し合っており、共有している。	重度化や終末期の対応については、指針を整備しており、利用開始時に本人や家族に説明して理解を得ている。入居後は状態変化に応じて家族に説明し、重度化した時点で主治医や職員、家族は十分な話し合いを行って、可能な限り希望に添った支援に取り組んでおり、これまでも多くの看取り（本年度は既に5件）を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、掲示している。職員会議・勉強会などで確認し実践できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成している。また年1回以上は消防署立ち会いで避難訓練を実施している。災害時の炊き出し訓練を地域の方にも声をかけながら実施検討したが、今回はコロナ渦の為、中止している。</p>	<p>年2回、夜間も想定した火災及び風水害の防災訓練を保育所と合同で実施しており、近隣の住民にも事前にチラシを配布して参加を得ている。消火器等の取扱いの研修も実施し、日頃から災害の報道等を基に意見交換するなど防災に対する認識を共有している。連絡網を作成し、自動通報装置やスプリンクラーが整備され、災害時の食糧や飲料水、介護用品等を防災担当者がチェックしながら備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人だけ気をつけるのではなく、周囲のスタッフの言動にもお互いで意識しあい、声を掛け合いながらご入居者の尊厳やプライバシーの保護について心がけている。	利用者の人格や誇りを損ねる事の無いように計画的な研修の実施やケアの振り返り等で認識を共有し、利用者の生活歴や背景、習慣等にも配慮しながら思いを尊重した支援に努めている。印刷物への氏名、写真の登載については入所時に確認しており、排泄や入浴時の声掛け等は適切な声のトーンや言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望や思い、意向をお聴きする際、選択をしてもらいやすいような声かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の状態により職員ペースで動いている事もあるが、出来るだけ入居者それぞれのペースに合わせて、安心して穏やかに過ごして頂けるように気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	必要に応じて散髪・髪染めの支援をしたり、離床時には身だしなみを整えるようにしている。出来るだけ好みの洋服と一緒に選ぶようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に好みのメニューを聞き、目の前で調理する事で目・耳・鼻・で感じて頂き、より食事を楽しみにしていただく。外食や好みの物を外部より取り寄せたりして食事を楽しんで頂けるように努めている。	利用者の好みや栄養バランス、形態、季節感、疾病に伴う摂取制限等に配慮したメニューで調理しており、利用者もテーブル拭きや配膳、お盆拭き等を楽しみながら一緒に行っている。ラッキョウ漬や手作りのおやつ、誕生会や季節の行事食、園庭でのお茶等、食事が楽しみとなるよう工夫しているが、新型コロナウイルスの感染予防のため外食や家族との会食、住民との餅つき等は現在実施していない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に合わせた食事の提供を行っている。(食事形態・食事量・温度)食事量、水分量を記録し時間に関係なく状態に合わせて支援している。(食べたい時に食べたい物を召し上がっていただく)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、みなさんの状態に合わせて口腔ケアを行っている。出来るところまではして頂き、磨き残しは介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用して排泄パターンをつかみ、利用者様のトイレに行くタイミング(しぐさ・動き)も見逃さず、ニーズに合ったケアを行うようにしている。	各利用者の排泄パターンを把握し、習慣にも配慮しながら昼間は声掛け等で可能な限り居室のトイレでの排泄を支援している。利用者に応じた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させ、便秘の予防には乳製品や水分の摂取、運動量等に配慮し、主治医にも相談して改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に配慮し、水分補給や適度な運動を促している。医師や看護師に相談し連携を取りながら、薬剤によるコントロールも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	利用日の計画はあるが、ご本人の希望や予定によって相談にのっている。本人のペースで入浴を楽しんで頂けるように支援している。	基本週2回の入浴を、清拭や足浴等も取り入れながら支援しているが、排泄時の汚染等には、その都度、清拭やシャワー浴で清潔を維持している。予定外の入浴希望や温度、時間、習慣、同性介助等を柔軟に対応し個浴で楽しんでもらい、入浴後は皮膚疾患の手当や水分補給を行っている。入浴をためらう利用者には、無理強いないで時間や声かけ等を工夫して、利用者自身の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿って休息の時間を取っていただいている。夜間は一人一人に合わせて入床介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を行う際には誤薬の無いように複数人で確認している。薬の副作用は把握できていない事もあり、薬事表を確認したり薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の趣向を把握し、状態に合わせて役割を持って頂いたり、楽しみ事を取り入れて気分転換を図っている。(レク・散歩・買い物・外食・ドライブ等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>外出の希望があるときには、出来るだけ屋外に出かけられるようご家族にも協力をもらいながら支援している。また、地域の行事参加や定期的な外出行事も行っているが、コロナ渦で控えている。</p>	<p>心身の状態や天候等に配慮しながら日常的に園庭やホーム周辺の散歩、保育園児との交流を楽しんでいる。新型コロナウイルス感染予防に配慮したルールを作成して、ドライブや買い物。通院、墓参、一時帰宅等の外出を家族と協力して取り組んでいるが、地域のイベント（夏祭りや運動会等）の参加や、全員での外出、外食（ソーメン流し）は実施を控えている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物や外出の際にはご本人のお小遣いを用意し、希望があれば購入を行っている。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご希望があれば支援を行うようにしている。携帯電話を使用している方には、使い方の相談や充電の確認など支援をしている。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂・居間・台所がワンフロアになっており、中庭まで一体的に開放感を感じられる様に工夫している。中庭の様子や、室内の飾り付けなどから季節感を感じられる様に取り組んでいる。</p>	<p>ホームは中庭を囲むような円形状の平屋家屋で、廊下や玄関、リビング等の共有スペースは、明るく開放感に満ちている。季節の活花や利用者の作品等が随所に飾られ、また、菜園には季節の野菜（トマトやサツマイモ等）が植えられ、園庭の中央の大きな桜の木の下でお茶や日光浴、利用者同士や保育園児との交流が楽しめるなど、家庭的で和やかな雰囲気である。清掃や空調、衛生管理等が徹底され、不快に感じる音や臭いもなく、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穩に過ごしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご利用者の状態や関係性に配慮し、気の合ったご利用者同士がゆっくり過ごせるように、ソファやテーブルの配置を工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人が使っていたものや、なじみのものなど入居時に持ってきていただき、これまでの生活の様子を伺いながら、室内を自由に使ってもらっている。</p>	<p>畳と一部絨毯の居室は明るく、エアコン、洗面台、トイレが備えられている。ベッドは自宅からの搬入やホームの備品を活用しており、利用者の状態に併せて高さや設置場所を調整している。利用者の意向を確認しながら整頓等を支援し、家庭同様に快適な生活となるように、利用者は使い慣れた寝具やテレビ、衣装ケース、思い出の家族写真や小物等を持ち込み、また、自分の作品も飾って居心地の良い居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者個々の出来る事、出来ないことを見極め、安全な生活が送れるよう工夫している。生活動線の環境整備として動線上に物を置かないように気を付けている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない